

こころみょう

お盆について……

◆お盆は家族・親戚・知人が集まってご先祖様・先亡の霊を迎かえます。お墓にお参りし、灯明をつけて夕方には「御霊（みたま）」を家に向かい入れます。



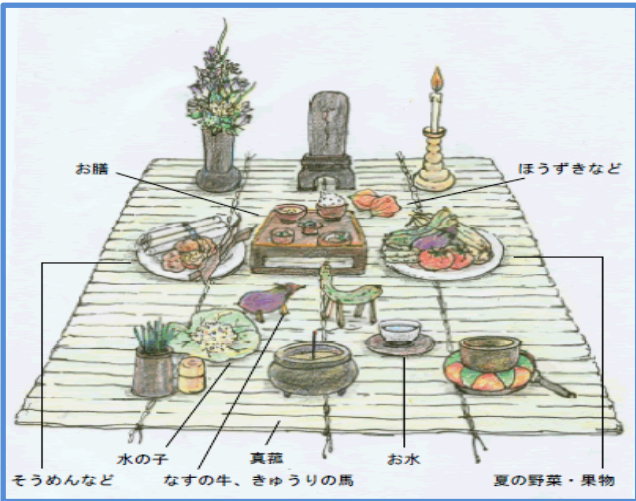
昔は自分たちの住まいが寺の近ところが多かったので夕方には徒歩でご先祖様の霊をお迎え出来ましたが、最近ではなかなかむずかしい慣習になってしまいました。いつの時代でも先亡の精霊を大切に作る気持ちも失わぬ、お盆の時期には日頃出来ないご先祖様の供養をきちんとしたいものです。

◇お盆の時期には徳を積んで

「先祖供養」をします

「お盆」は正式には「盂蘭盆会（ウラボンエ）」といえます。盂蘭盆会はお釈迦様の弟子、木蓮尊者があつた世で飢えに苦しんでいる母を救うために大勢の弟子たちにご馳走したのがはじまりで、「盂蘭盆会」は梵語でウランバーナつまり「逆さつり」という意味を持ち、つまり地獄で苦しんでいる亡者を救うためにこの世で正しいことを行い徳を積んで祖先の霊に報いるという意味をもっているといわれています。

☆精霊棚のつくり方例☆



●精霊馬 ちようりようま

を作ってみよう！

先祖の霊はキュウリの馬に乗り、ナスの牛に荷物を持たせて、この世とあの世を行き来します。また、帰るときは馬に乗って少しでも早く、帰るときは牛に乗って少しでもゆっくりと、という気持ちの表れでもあると。作り心地がいいように、上手に作ってあげましょう。

材料 キュウリ1本 ・ ナス1本

割り箸2組程度

作り方

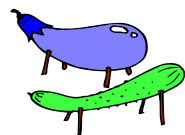
割り箸を適当な長さにカットして

8本の足を準備する

キュウリとナスそれぞれ

にバランスよく足を刺せば出来上がり

【伊職震災奉仕活動】



三月十一日の東北地方大震災により四月の上旬に予定されていた増上寺行事がすべて明年に延期されました。その空いた時間に日本赤十字社の救護ボランティア活動で四月上旬に福島あづま総合体育館救護所、下旬に岩手県釜石市での救護活動、五月中旬に岩手県釜石での「心のケア」サポートと都合同2週間ほど被災地に行きました。福島ではちようど、風評被害が出てきた頃で原発と津波で避難してきた方々に救

釜石に近い大槌町



護所での医療活動のサポートをして来ました。岩手県釜石では救護活動の本拠地より約1キロ程行く津波による被害が尋常でない「瓦礫」の町中での救護医療活動と「心のケアチーム」のお手伝いをさせていただきました。時期が少しずつ離れたところに被災地入りをしているのでほんの少しづつ復旧のきざしがみえていたりします。被災された多くの方々は日常生活を戻すのに大変な御苦労をされています。未曾有の大災害で復興には多くの時間がかかるでしょうが微力ながらお手伝いを続けていく所存です。震災100日目には陸前高田市で津波により亡くなったしまった後輩住職とその娘さんのお寺に行く事が出来、ご遺骨前にお経を称えてまいりました。東日本大震災横難歿死諸精霊位

抜苦与楽超生浄土
聖号十称 南無阿弥陀仏